

XX-11. 瑞浪コハクから発見されたハナノミについて

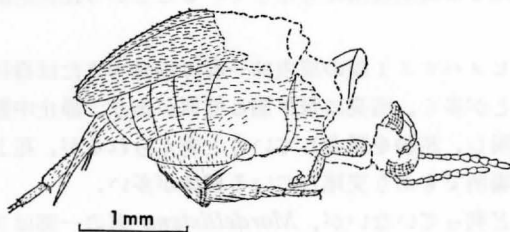
(Insecta : Coleoptera)

佐藤正孝*

コハクアカヒメハナノミ (*Mordellistenoda* sp.) (第XX-11-1図)(Polyphaga 多食亜目, Cucujoidea ヒラタムシ上科, Heteromera 異節群, Mordellidae ハナノミ科, Mordellistenini ヒメハナノミ族, *Mordellistenoda* アカヒメハナノミ属)

所検標本: 1 ex. (標本番号; No. 34)

保存状態: 虫体の後方約 $\frac{2}{3}$ すなわち、頭部の破片と触角、左前肢の跗節(推定)、右中肢と左中肢の破片、後胸板の一部、後基節の大部分、腹部全体、右後肢と左後肢の腿・脛節、翅の後方約 $\frac{2}{3}$ などがほぼ完全な形で残っている。それらの微細構造である細毛、刺などもかなり良好に検鏡できる状態である。胸部、翅鞘基部約 $\frac{1}{3}$ 、頭などを斜めに横切る点でコハクの層が異なり、曇りが見られることから体の約 $\frac{2}{3}$ が埋没し前方約 $\frac{1}{3}$ が失われた後にやや時間をおいて、さらに樹脂が滴下して全体が埋没したため後方約 $\frac{2}{3}$ だけが残る結果となったのではないかと推定できる。



第XX-11-1図 コハクアカヒメハナノミ
(*Mordellistenoda* sp.) (標本番号 No. 34)

記載: 全体黒色で、後基部は濃褐色をしていると推定。触角の第1~3節はそれぞれほぼ同じ長さで、第4節は第3節よりやや長い、第8・9節はほぼ同じ長さで第4節よりもやや長く明らかに幅広い、第10節は第9節よりも僅かに短い、第11節は第9節よりもやや長く、長さは幅の約1.7倍。翅鞘は汚黄色(推定)の細毛で密に覆われるが、表面と細毛の間に気泡ができ点刻は判らない。体下面は汚黄色(推定)の細毛で密に覆われるが、翅鞘のそれよりもややまばらで長い、また後基節の基部は略半円形に細毛を欠く。腹部、後基節および後腿節の表面は僅かにさめ肌状を呈する。前・中肢の第4跗節は広がり中央がくびれて2片状を呈する。後肢の段刻式は3-2-2-0で、脛節の長い2本の段刻は上縁に沿っている。脛節の2端刺は長く第1跗節の約0.6倍で2刺とも同じ長さ。跗節の第1節は長く第2節の約2倍、第3節は第2節よりやや短い、第4節は第3節より僅かに短い。尾節板は細長く尾節の約3倍の長さ。

測定値: 体長(翅端まで) 約3.5mm(推定)、触角長 1.1mm、後腿節長 0.9mm、後脛節長 0.7mm、後跗節長 1.1mm、尾節長 0.3mm、尾節板長 1.0mm。

* 名古屋女子大学生物学研究室

同定理由：ハナノミ科は4族に分類されるが、後肢に段刻を具えることにより *Stenaliini* か *Mordellistenini* に属することは明らかである。しかし後胸側板が失なわれているのでそれらのいずれであるかはっきり判らないが点はあるが、残余の特徴から *Mordellistenini* (ヒメハナノミ族) に属すると考えてもよいと判定した。またこの族は世界各地に分布してハナノミ科の中では最も多くの種を含んでおり、幾つかの属を含むがその分類にはいろいろな意見があって同定は容易でない。前・中肢の第4附節が2片状であることから *Glipostenoda* 属近縁の属に含まれると考えられる。さらに後脛節の2端刺は長くて同じ長さであることから *Mordellistenoda* 属の種と考えた。この属は *M. aka* (Kôno) [アカヒメハナノミ] 唯1種が本州・四国に分布するが、*M. fukiensis* Ermisch と同種と考えられているので分布は中国大陸南部まで伸びることになる。しかし、*M. aka* は全体赤褐色で段刻式が3—2—1—1であるのでこの種とは異なり現生種に該当する種はない。

いっぽう、*Mordellistenoda* 属に近縁の *Glipostenoda* 属や *Falsomordellina* 属に含まれる約25種が特徴のとり方などによって上記3属の名称が二転三転して用いられてきている。そこで、それらの種も一応当たってみたが端刺の点ではどれにも該当する種はなかった。

従来の記録：これまでにハナノミ科の化石が発見された記録については、手許の文献不足のため一寸判らない現状である。しかし、ここに報告した属に限れば初めての記録ではないかと思われる。

分布：ここに報告した種を含む属の分布は本州・四国と中国南部で、南方に片寄りを見せているが、前記した2属を含めてもその分布は本州から琉球列島、台湾を経て中国南部といえることができる。しかも本州では関東以南に分布していることから比較的暖地を好む一群であると考えられる。

現生近縁群の生態：ヒメハナノミ類の成虫は一般に森林中または森林を背景とした草原などの白い花に飛来することが多く、活発に飛び廻る性質があり、静止中驚いたりすると後肢で跳躍する。4～9月に出現し、花粉を舐食していると考えられるが、花上に多くの個体が飛来しており雌雄の出合いの場所でもあり交尾している個体が多い。

幼虫の生態はほとんど判っていないが、*Mordellistena* 属の一部はヨモギ、アサなどいろいろな植物の茎に虫瘻を作っている記録が見られる。また、枯木やキノコに入っているものも知られている。その他ほとんど生態については判っていないが、これまでの筆者の採集経験からも生活上樹脂との関係はないものと考えられる。

なお、*Tomoxia* 属や *Glipa* 属のある種では針葉樹の生木や枯木に幼虫が入っているが族を異にした一群である。

まとめ：現生種とほとんど変らない形態を示していることは同定結果からも伺え、現在日本に分布しているヒメハナノミ類と密接な関係にあったことは明白である。ハナノミ科とくにヒメハナノミ類は近年まだ新種が記載される状況にあり中国大陸のものがあまり判っていないことを考えると、将来ともに同種または極く近縁の種が発見される可能性は充分考えられる。

コハクヒメハナノミが生息していた時代は近縁属の分布と併せて考えても、現在と同じかあるいはより温暖な気候で下草の多い森林があったと推定できる。

参考文献*

- ERMISCH, K., 1941. *Mordellistenoda*, eine neue Mordellidengattung aus der chinesischen Provinz Fukien, Mitt. Münchner Ent. Ges. 31 (2) : 589—593.

* これらの文献の一部は中條道夫博士のご好意で参照できた。記して厚くお礼申し上げます。

- 1941. Tribus Mordellistenini (Col. Mordell.), Mitt. Münchner Ent. Ges. 31 (2) : 710—725.
- 1949, 50. Die Gattungen der Mordelliden der Welt, Ent. Blätt. 45, 46 : 34—92.
- 河野広道, 1936. 昆虫綱. 鞘翅群—鞘翅目. 花蚤科, 日本動物分類 10 (8—1) : i + 4 + 79 pp., 東京, 三省堂.
- 中根猛彦, 1957. 日本の甲虫, 33, 35, 37, 38, 新昆虫 10 (1) : 50—55, 10 (5) : 53—59, 10 (9) : 45—50, 10 (11) : 52—58.
- NOMURA, S., 1951. Zur Kenntnis der Mordellistenini (Col. Mordellidae) aus Japan, Korea und Formosa, Tôhō-Gakuhô 1 : 41—73, 1 Tab.
- TOKEJI, M., 1953. Some Notes on the Mordelline-beetles from Japan and Saipan Island, Chûhō 8 : 1—22, 1 pl.